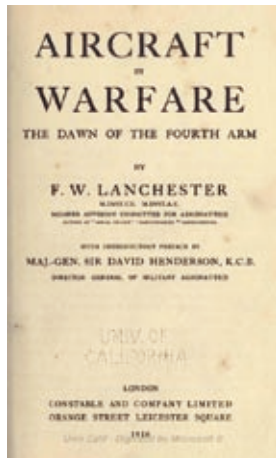


Title	奥付・裏表紙
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2009
Jtitle	新版 窮理図解 No.2 (2009.)
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000002-0009

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.



ORの原点となったイギリスの論文
<http://www.archive.org/details/aircraftinwarfar00lanrich>

今回特集した武田専任講師の研究は、オペレーションズ・リサーチ (operations research, 略称 OR) という分野に属します。operation とは「作戦」、research は「研究」ですから、直訳すれば「作戦研究」。その名が示すように最初は軍事関連で使われました。

第二次世界大戦中、アメリカ、イギリス両国は日本、ドイツとの熾烈な戦闘の中で、より効果的な戦力の使い方を模索し OR として発展させました。例えば、日本の神風特攻隊から艦船を守るにはどのように船を操作して迎え撃つたらいいかとか、レーダーを適切に配置することによって敵機発見の効果を上げるといったことに使われました。個々の兵器 (ハードウェア) の能力を上げるのではなく、その使い方 (ソフトウェア) で効率を上げようというのが OR の基本的な考えです。

戦争で目覚ましい成果を上げた OR の考え方は戦後、主に会社などの経営や製品を作る生産計画などに応用されました。日本オペレーションズ・リサーチ学会の web サイトでは OR を「問題を科学的、つまり“筋のとおりた方法”を用いて解決するための“問題解決学”と定義しています。

OR には、数学、工学だけでなく経済学、経営学など幅広い分野にわたる、学際的な研究としての性格があります。また、現代は環境問題一つを取ってみても、さまざまな要素が複雑に絡み合っており、全体のバランスをとりながら最適解を見つけ出す OR の必要性はますます高まっています。

編集後記

創刊号の医工学系牛場専任講師に続いて、今回は理論系の武田専任講師が登場しました。取材を申し込んだ時には「机に向かってばかりで動きもないし、特集しても面白くないですよ」なんて言っていましたが、机に向かいながら、研究範囲は分野を越えて、広く社会を駆け巡っていることがお分かりいただけたのではないのでしょうか。武田研究室は今年度新設されたばかり。今後のますますの活躍が期待されます。

6 ページでは、理工学部最寄りの東急東横線日吉駅から約 10 分の、自由が丘駅付近にある武田専任講師おすすめスポットをご紹介します。これからも、特集する研究者の“OFF 時間”(=素顔)が見えるよう、彼らに興味のあることや、多忙な日常のなかでほっとする瞬間についてお伝えしていきます。

次号は 3 月初旬発行予定、ナノ・マイクロスケールの小さな電気機械システムを専門にした機械工学科所属専任講師が登場します。普段は散らかり気味の本棚の整理をもう済ませて待機中とのこと、編集者冥利に尽きます。

※ 新版 窮理図解 web サイトでは、誌面の都合上掲載しきれなかったインタビューの完全版を掲載しています。ぜひご覧ください。(平良沙織)

イノベーション創出戦略マネジメント講座 (ソニー 寄附講座) 第3回公開シンポジウム 「人類・社会の新たなる発展を目指して ~これからの地球環境と経済~」

2010年2月24日(水) 18:00~

三田キャンパス北館ホール

参加費無料・事前申込制

<https://www.wdc01.adst.keio.ac.jp/kj/kll/index.php>

2009 年度に大学院理工学研究科に設置された寄附講座による、3 回シリーズの公開シンポジウムの最終回です。理工学研究科特別研究教授でもある、(株) ソニーコンピュータサイエンス研究所代表取締役社長の所真理雄氏が司会をつとめ、東京大学大学院工学系研究科西成活裕准教授ほかを迎えて行われます。

お申し込みは上記 URL からどうぞ。

第7回 KLL 産学連携セミナー 「~多彩に広がる“光”の可能性~」

2010年2月26日(金) 15:00~

日吉キャンパス協生館2階 多目的教室3

参加費無料・事前申込制

<http://www.kll.keio.ac.jp/seminar/index.html>

慶應義塾先端科学技術研究センター (KLL) が主催する産学連携セミナーです。今回は、「光をあやつる」ナノフォトニクス技術、「光で制御する」材料、「光の機能を使う」デバイス、「光を医療に活用する」システム、の4つの研究テーマをご紹介します。セミナー後には懇親・意見交換会を開催予定です。

お申し込みは上記 URL からどうぞ。

新版 窮理図解

No.02 2010 January

編集 新版窮理図解編集委員会
 写真 邑口京一郎
 デザイン 八十島博明 (GRID)
 編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
 発行者 青山藤詞郎
 発行 慶應義塾大学理工学部
 〒 223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1
 web 版 <http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai>